

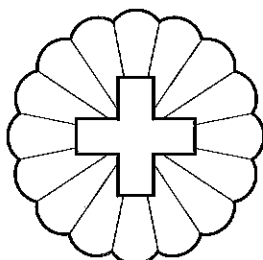
# 会報

— 11号 —

平成27年8月15日発行

発行 者 皆川 浩一

広報編集者 小島南海雄



公益社団法人 東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ  
指圧師会広報局

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町37-4

Tel 03(3252)8811 Fax 03(3252)8813

**緊急告知**

この都民公開講座を聴き逃すな!!

戸ヶ崎正男 (日本伝統鍼灸学会学術部長, 阿佐ヶ谷・蓬治療所院長)

## 『暮らしに生かそう! 東洋医学』

——健康で長生きできる秘訣を伝授

鍼灸マッサージ師がめざすのは国民のための医療です。

- 病気になる、①検査漬け、②手術、③薬漬け、の毎日が待っています。

これが日本で主流の西洋医療の実態です。あなたのまわりでも思い当たることが多いのでは……。

- 時代は統合医療になっています。

西洋医療の代表といえばアメリカです。ところが、アメリカはすでに一歩先を行き、代替医療を取り入れた統合医療の時代になっています。代替医療とは、はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧、カイロ等々のことです。すでに大学の医学部でも必修科目となり、単位がとれないと医者にもなれないといわれます。日本では、このことに目を向ける医師がまだまだ少ないのです。

- 統合医療の特徴は、生活改善、体質改善を重視することです。

東洋医学では、人間のからだに備わっている自然治癒力を最大限に生かします。国家資格免許のあるはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師が皆様の健康づくりのお手伝いをします。

開催日時：2015年9月13日 14:00~15:30

開催場所：ホテル・ルポール麴町

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-3

TEL: 03-3265-5361 FAX: 03-3779-9182

交通 東京メトロ有楽町線「麴町駅」1番出口より徒歩3分

同 南北線・半蔵門線「永田町駅」5番b出口より徒歩5分

参加費：無料

参加方法：自由参加。当日直接会場にお越しください

## 都師会主催平成27年度公益事業実施スケジュール

### 1 東京都委託施術者講習会

#### ● 8, 9, 10月の開講スケジュール

8月16日(日) AZP理論で訪問リハを始めよう

講師：西村久代(大阪・訪問リハビリ研究センター代表)

会場：台東区民会館(台東区花川戸2-6-5)



9月20日(日) すぐにできるVAMFIT(経路系統治療システム)入門

講師：木戸正雄(日本鍼灸理療専門学校教務部長)

会場：かつしかシンフォニーヒルズ5F会議室レインボー(葛飾区立石6-33-1)

電話問い合わせ不可



10月18日(日) プロフェッショナルきゅう師への第一歩

講師：福島哲也(東京九鍼会・灸法臨床研究会講師)

会場：かつしかシンフォニーヒルズ5F会議室レインボー(葛飾区立石6-33-1)

電話問い合わせ不可

### 2 松塾・杉塾

都師会副会長・松田博公、会員・杉山勲による講習会です。昨年同様、毎月1回、年12回の開催です。講座内容に基本的な変更はありませんが、開催形式が次のように変更になりました。4月～10月は都師会の単独企画、11月～翌年3月は東京都委託施術者講習会としての開催です。

①松塾 4月～翌年3月の第1土曜日、10:00～12:00

都師会会館3F会議室

②杉塾 4月～翌年3月の第1日曜日、10:00～12:00

東京都障害者福祉会館(港区三田5-18-2)

## 公益事業実施報告

### 健康の維持・増進に役立つ、日本伝統鍼灸の真髓を学ぶ

平成27年度東京都委託施術者講習会の講座内容から

「はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧という手技を通して、都民の健康の維持・増進に貢献する」というのが当会の設立理念ですが、その理念にもっと近い公益事業です。特に毎回の実技体験では、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧の医療における有効性が実感できます。医師による医業とはり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師による医業の本質

的な違い、両者の医業の接点・併用などが健康の維持・増進に効果をあげることがよくわかる講座になっています。

担当する先生方は、日本でもこの業界のトップレベルの著名人です。毎回行われている会場での実技も、受講者の中から被験者を選びますので、立候補することにより名医の施術を体験することも可能です。ぜひ一度ご来場いただき、はり・きゅう・あん摩マッサージを体験されてはいかがでしょうか。

6, 7月に実施された今年度の東京都委託施術者講習会のおもな内容は次の通りです。

なお、松塾、杉塾ははり・きゅう・あん摩マッサージの理論体系の講座となっております。はり・きゅう・あん摩マッサージの精神にふれてより深く追究しようとお考えの方にお勧めです。

## ■海外に雄飛する易の太極思想に基づく治療

——平成27年度第1回東京都委託施術者講習会

講座：積聚治療はどんな鍼灸臨床をめざすか

講師：小林詔司（積聚會会長，日本伝統鍼灸学会元副会長）

### ◆患部に直接鍼を打たない積聚治療

小林先生は、今回、積聚治療の実技デモからスタート。理論的な裏付けの話はあと回しにしました。そのうえで、もう一度、実技デモをするという初心者に分かりやすい講義の流れをつくったのでした。

被験者は一週間ぐらい頭痛が続いているという女性で、腹診、手脚の触診、脈診を行います。腹診では、しこりの有無をたんねんに調べます。お腹にあるしこりは、中国伝統医学で「積」と「聚」と名づけられています。「積」と「聚」は「精気」と呼ばれる全身の生命エネルギーの衰えの元と考えます。そこで、それがあつ場所、その状態に基づいて治療方針を立て、はりをするので「積聚治療」と命名されたのです。

「積聚」を調べて治療するといっても、先生は「積聚」そのものに鍼を刺すではありません。「積聚」は、あくまでも「指標」であり、実際に治療する場所は、お腹にあるしこりとは関係のない背中です。これが、初めて見る聴講者には不思議な感覚です。鍼灸学校や多くの治療院では、患部に鍼をすると習うのが普通だからです。

先生はそうではなく、背中にある「愈穴」と呼ばれる、心・肝・脾・肺・腎の五臓と密接に関連するツボを治療点に、一定の順番で鍼をしていきます。聴講者の目が、スクリーンに映し出される被験者の背中に集中し、場内は緊張し沈黙しています。

### ◆刺すだけの鍼では治療にならない

先生が使う鍼は、1回使用のディスポーザブル鍼ではありません。先を丸くし、刺しにくいように工夫した特別の鍼で、先生のShojiの名を取り、SJ鍼と呼ばれています。これが、二度目のびっくりです。市販のディスポーザブル鍼は、刺しやすいようにつくられていて、わざと刺しにくい鍼をつくるメーカーは存在しません。

しかし先生は、「皮膚は緻密だったり、粗かったりします。その状態を無視して、ただ

刺せばよいというような手技は、治療になっていない。皮膚が必要としていれば鍼を入れ、必要としていなければ皮膚上の刺激にとどめて中には入れない。そのためにSJ鍼を考えました」と説明するのです。

先生が鍼を終えて、「指標」であるお腹の「積聚」を触診すると、しこりが治療前よりも柔らかくなりました。直接、刺す必要はないのです。背中中の「兪穴」を使って、全身の治療をすれば、気血が流れ、お腹の「積聚」も柔らかく小さくなる。治療を続けていくと、全身に生命エネルギーが満ちて、やがて「積聚」も消えていく。それが積聚治療の目標です。治療を終えた女性はベッドに座り、頭痛は消えたと報告しました。



先生は、中国の易に関する入門書を書いているほど、易の思想に通じています。易の思想は、宇宙の根元にはエネルギーが凝縮した無の領域があると考え、それを万物の根元である「太極」とするのです。先生は、そのような宇宙論をひとのからだに当てはめ、へその下の腹部を「太極」と設定したのです。この人体の「太極」のエネルギーが欠乏したとき、背中を通して五臓の治療を行えば、「太極」のエネルギーも賦活して、健康を取り戻すことができるという思想なのです。そして、治療家は、宇宙の太極のエネルギーが天から自分のからだに入ってくるというイメージの訓練をし、その意識で患者さんに接することが大事だと、治療における「意識」の重要性を強調されたのです。

積聚治療は、アメリカでも好評で、先生はボストンやハワイで定期的に講義してきました。アメリカの鍼灸学校で教えるお弟子さんも現れています。積聚治療は日本を代表する鍼灸術の一つとして、海外に雄飛しています。

## ■鍼灸医学の独自の生命観を社会に定着させよう

——平成27年度第2回東京都委託施術者講習会

『鍼灸の挑戦』刊行10周年記念大シンポジウム

鼎談：日本鍼灸の現在・未来を大いに語ろう

石原克己（東京九鍼研究会会長）

戸ヶ崎正男（和ら会代表）

松田博公（当会副会長）

司会／小池俊治（東明堂小池鍼灸院院長）

### ◆みんな悩んで大きくなった

『鍼灸の挑戦』（岩波新書、2005年）は本会の松田副会長の著書で、全国の約80人の鍼

灸師、医師をたずねたルポ集です。これまで4万部が読まれ、鍼灸学校の入試の面接では、今も『鍼灸の挑戦』を読んで鍼灸師を志した」と語る志望者がいるほど鍼灸界のベストセラーです。刊行後10年、中に登場する名人の方々もかなり亡くなられたので、先人を偲び、日本鍼灸の未来を語り合おう企画されたシンポジウムでした。

石原克己先生と戸ヶ崎正男先生は、この本の最後と真ん中で重要なメッセージを語っている臨床家です。しかし、実技講習のないシンポジウムに何人の聴衆が集まるだろうか。松田副会長の考えは、20~30人の人々とじっくり話し合えばいいとのことでした。ふたを開けてみると、130人を超える参加者がいました。鍼灸のイベントでは、思想はうけが悪いといわれてきた業界の思い込みをみごとに打ち破ったのです。「若い鍼灸師は、本格的な思想に飢えているんですよ」とは松田副会長の弁です。

石原先生は、10数年前「いくら一生懸命治療しても、いったんよくなった患者さんが、また乱れた生活を繰り返し、治療院に戻ってくる。こんな治し屋のようなことをするために鍼灸師になったのではない。もうこの仕事を辞めよう」と悩む姿が『鍼灸の挑戦』で描かれています。

その後、石原先生は、患者さんの本当の治癒は、魂の救済がなければおとずれない、逆に魂の救済があればがんも治癒するし、死をも喜びとともに受け入れられるという心境に達し、スピリチュアルな知恵や技法を求めました。今回の講義では、現在到達した境地を、中国、インド、ヨーロッパのいやしの思想の歴史から説明し、「人は病を通じて新しい自分になれる。そのためには、自分がなぜ病気になったのか、この病気にはどんな意味があるのかを洞察することが重要だ」と述べました。

戸ヶ崎先生は、大学で現代薬学を学んでいたときに、先輩の石原先生と出会い、漢方医学に足を踏み入れ、卒業後に鍼灸学校に通ったという、自分史から語り出しました。最初に就いた鍼灸の師は経絡治療家でしたが、経絡治療では患者さんをうまく治せず、悩みながら独学で、患者さんのからだに聞く触診のわざに打ち込んでいたある日、『医道の日本』500号記念（1986年）の「圧痛点による診断と治療及び指頭感覚」に出合います。



そこで、啓示のように方向性をつかみ、以後は徹底して体表観察（切経探穴）にこだわってきました。そして、ツボには、基本的に実から虚までの四つの型があるという「ツボの4類型」の提唱、